

# 第16回 ピポ・ユニバーサル駅伝

2017年9月24日(日)

神宮外苑絵画館前周回コース  
新宿区立四谷第六小学校



主催：NPO法人コミュニケーション・スクエア21（略称CS21）

共催：公益福祉法人新宿未来創造財団（レガス新宿）、東京セイシンライオンズクラブ

後援：東京都、東京都社会福祉協議会、新宿区、新宿区社会福祉協議会、新宿区教育委員会  
公益法人東京都障害者スポーツ協会、公益社団法人ライオンズ日本財団、毎日新聞社

協賛：全労済東京都本部西部支所、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、  
NPO法人ジャパンユニバーサルスポーツ・ネットワーク、(株)大和証券グループ本社  
(株)東洋エンジニアリング、東京電力パワーグリッド株式会社 東京総支社新宿支社、  
東京尾張町ライオンズクラブ、東京飯田橋ライオンズクラブ、東京九段ライオンズクラブ、  
東京蒼天ライオンズクラブ、株式会社キャッチアップ、株式会社シャッキリカレッジ、  
株式会社おやつカンパニー、大日本印刷労働組合、結核予防医学協会  
一般社団法人公開経営指導協会、全国ユニバーサルサービス連絡協議会、新宿韓国商人連合会、  
妻家房、医師・田代ひろし、看護師・米山守江、米山安一、村木秀之、河合悦子

協力：新宿区立四谷第六小学校、新宿区陸上競技協会、新宿区ジョギングクラブ 四谷地区青少年育成会  
公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会、日本リハビリテーション専門学校、  
東京東信用金庫四谷支店〔順不同、敬称略〕

## 誰もがいきいきと スポーツ を楽しめるまちに！

新宿区長 吉住健一

第16回ピポ・ユニバーサル駅伝の開催、おめでとうございます。  
また、今年も本大会にご招待いただき誠にありがとうございます。

ピポ・ユニバーサル駅伝のように、「さまざまな人と交流し、違いを認め合い、支え合う心地よさを体験する」という目的をもって、障害のあるなし・年齢・性別を問わない障害者スポーツが開催されることは、大変貴重なことと感じています。

新宿区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしにかかわらず、ライフステージ等に応じて多様なスポーツ・文化活動に親しめる環境の充実に取り組んでいます。さらに東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」や「ゴールボール」の体験教室や指導員養成などの事業を実施し、気運の醸成を図っています。

本大会が、誰もが気軽にスポーツ活動を楽しむとともに、障害者スポーツに対する理解を深める機会となることで、区民が互いに社会参加を支援し合う関係づくりにつながっていくことを切に願っています。

最後に、主催のNPO法人コミュニケーション・スクエア21をはじめ本大会の開催にご尽力された皆さま、本大会に参加され新宿を盛り上げてくださる皆さまに、厚く御礼を申し上げます。



《新宿区長からのメッセージ》

### 「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」で 来日する研修生が参加します！

この事業は、アジア太平洋地域の障害ある若者が、約10ヶ月間日本の障害者福祉や日本文化を体験し、将来それぞれの国で当事者リーダーとして地域社会に貢献することを目指す人材育成事業です。



ルーさん  
〔タイ〕  
聴覚(難聴)



ソロンゴさん  
〔モンゴル〕  
聴覚(ろう)



ラクシミさん  
〔ネパール〕  
視覚(全盲)



クリッシュさん  
〔フィジー〕  
視覚(全盲)



ルーベルさん  
〔バングラデシュ〕  
肢体(ポリオ)



アナムさん  
〔パキスタン〕  
肢体(ポリオ)

## ピポ・ユニバーサル駅伝 プログラム

9:30 選手・ボランティア受付開始

9:50 チーム仲間づくり（チームごとにマネージャーを中心に）  
 ・自己紹介（チームの名前を決める）  
 ・協議の説明・走順決定（オーダー用紙に記入）  
 ・コース見学（試走・全員で一緒に） ・オーダー用紙提出

10:30 開会式  
 ・開会の言葉 米山 安一（第16回ピポ・ユニバーサル駅伝実行委員長）  
 ・主催者挨拶 大塚 公彦（NPO法人CS21理事長）  
 ・来賓祝辞 吉住 健一（新宿区区长）  
 佐原 たけし（新宿区議会議長）  
 細川 孝雄（ライオンズクラブ330A地区ガバナー）  
 ・競技説明 青山 健二（審判長）  
 ・選手宣誓／チーム名発表  
 ・準備体操（日本リハビリテーション専門学校）

11:00 駅伝スタート 5人の選手がタスキをつなぐ  
 ・先導、後走（日本リハビリテーション専門学校）

12:00 駅伝終了

12:10 四谷第六小学校に移動・昼食

12:30 交流会  
 ・交流会挨拶 児玉 純（四谷第六小学校 校長）  
 ・海外からの参加者紹介 通訳 塩野亜奈美



ボッチャ



13:20 閉会式  
 ・成績発表 青山 健二（審判長）  
 ・賞状授与 米山 安一（大会委員長）  
 ・賞品授与 大塚 公彦（NPO法人CS21理事長）  
 菊池 章倫（大会副委員長）  
 ・閉会の言葉 久賀 紳邇（東京セイシンライオンズクラブ会長）

13:40 解散

株式会社 シャッキリカレッジ

様々な人の元気づくりに

シャッキリ体操を提供します。

代表取締役 李 節子

**ユニバーサルスポーツとは**  
 さまざまな人が同じステージで、特定のルールを設定し、  
 一緒にプレイできるユニバーサル社会をめざしたスポーツです。

第10回おたユニバーサル駅伝大会は  
 2017年6月4日(日)に開催されました。  
 2018年は6月3日(日)に開催致します。

NPO法人 (通称:JUSNジュスン)  
 ジャパンユニバーサルスポーツ・ネットワーク  
 TEL:03-5753-3860 <http://jusn.org/>

# 東京

TOKYO  
tokyo@mainichi.co.jp

## 車いす利用の11歳 両親と参加

# 家族でつなぐ

新宿区の明治神宮外苑で24日開かれた「第16回ピポ・ユニバーサル駅伝」(毎日新聞社など後援)は、参加者らが障害の有無や世代、国籍を超えてチームをつくり、目標タイムを目指してたすきをつないだ。NPO法人コミュニケーション・スクエア21(大塚公彦理事長)が主催し、今回は75~95歳の約200人が参加した。

【五味香織】

### 新宿・ユニバーサル駅伝

車いす利用者で杉並区の奥田健斗さん(11)は、両親とともに初めて参加した。

父真佐志さん(58)がサポートしながらコースを一周し、次の走者の母英子さん(50)にたすきをつないだ。走り終えた英子さんは、ゴールで待っていた健斗さんに駆け寄り「すごく楽しかった」と笑顔で語りかけた。

健斗さんは599号の超低体重で生まれ、現在は特別支援学校に通う。英子さんは「普段接する人は限られ、社会に触れる機会が少ない。さまざまな人が参加するユニバーサルなイベントなのでうれしい」と話した。特別支援学校からはこのほか、都立光明学園の生徒らもレースに参加した。

レースには、伴走スタッフとして日本リハビリテーション専門学校(豊島区)の学生16人も参加。2年生の古谷耀(はるか)さん(20)は「いろいろな国籍の参加者がいるので、福祉だけでなく多文化が学べる」と手応えを語った。

また、レース後の交流イベントでは、リオデジャネイロ・パラリンピックで正式種目になった「ポッチャ」の体験もあり、参加者を励ました。ダスキンの「アジア太平洋障害者リーダー育成事業」で来日したアジアからの研修生6人もレースやイベントに参加。視聴覚などに障害があり、日本で福祉を学んでおり、バンングラデッシュ出身のルーベル・ラナさん(26)は母国の歌を披露した。



レースを終えて、言葉を交わす奥田健斗さん(右)と母英子さん—新宿区で、小川昌宏撮影



中継地点でたすきを受け渡す参加者ら—新宿区で、同撮影

### 障害など超え たすきつなぐ

障害や年齢、国籍を超えたチームでたすきをつなぐ「第16回ピポ・ユニバーサル駅伝」(NPO法人コミュニケーション・スクエア21主催、毎日新聞社など後援)が24日、東京都新宿区の明治神宮外苑であり、選手ら約200人が参加して秋空の下を駆け抜けた—写真。

小学生や高齢者、障害者が混在する選手と、サポート役のボランティアで約10人のチームをつくり、1キロずつ5区間を走った。速さではなく、各チームの目標タイムや主催者が設定したタイムとの時間差を競い合った。

車いす利用者で、埼玉県狭山市の近藤靖一郎さん(48)は「さまざまな人が一緒にスポーツに取り組める。たくさんの人に抜かされたけれど、マイペースで楽しめました」と笑顔で語った。